電気系におけるSlackの活用

松井 勇佑 講師（情報理工学系研究科）
齋藤 大輔 准教授（工学系研究科）

電気系とは

- 工学部電気系二学科（電子情報工学科・電気電子工学科：EEIC）を中心に関係する大学院の専攻まで含めた総称
  - 学部:
    - 工学部 電子情報工学科・電気電子工学科（ EEIC）[WS]
  - 大学院:
    - 工学系研究科 電気系工学専攻 [WS]
    - 情報理工学系研究科 電子情報学専攻 [WS]
    - 新領域創成科学研究科 先端エネルギー工学専攻
    - 情報学環・学際情報学府
- 本発表では主に[WS]のついた組織、特に学部でのSlack運用事例を紹介

電気系におけるSlackワークスペース

- 学部:
  - 工学部電子情報工学科・電気電子工学科（ EEIC)【WS】
- 大学院:
  - 工学系研究科電気系工学専攻【 WS】
  - 情報理工学系研究科電子情報学専攻【 WS】

- 学部で1つ、大学院で2つ、Slack WSを運用（無料プラン）
- 学部は学科所属全学生（1学年120名程度）が参加するWSを約2年半運用
- 先週全てのWSをUTokyo Slackに「移植」

Slackワークスペース作成の経緯

- 2020年3月末、コロナ禍初期において学生（特に4月から進学する3年生）と緊密かつ迅速のとれるコミュニケーションチャンネルが必要となった
  - これまでの連絡手段は事務室が管理する各学生の連絡先が中心で、あくまで対面で学生が来ることが大前提となっていた
- 2020年3月28日に，共通IDに基づくECCSメールを利用することで素早く対象者に参加してもらった
- その後、学生と教職員を含めた構成員をつなぐコミュニケーションプラットフォームとして運用
  - 学科での開講講義のチャンネル、必修の実験・演習のチャンネル　etc
  - #general での重要ニュースの通知、#random での関連情報宣伝など

Analytics & Current Status（2020.3 - 2022.9）

- 2022/09現在の参加人数: 709人（うちアクティブはおよそ500ほど）
  - 学部生1学年は120人ほど。退出ルールが曖昧なため大学院進学後も残るケースが多い
  - 教職員は50人ほど
  - そのほか実験TAとなる大学院生など
- 総メッセージ数: 50593（パブリック85% プライベート6% DM 8%）
  - 10000の壁（過去の無料の壁）に 1年弱で衝突。その際チャンネルの一部をアーカイブ
- 2022/09現在 移植前Publicチャンネル数 112
  - ただし上述の壁により年度単位の講義チャンネルなどは適切なタイミングでアーカイブ
  - 講義チャンネル、実験課題ごとのチャンネル、コンタクトグループ・学習グループのチャンネル、イベントごとの単発のチャンネルなど
  - 教職員と学生が共に入ったWSのため、
    一部にプライベートチャンネルを含む（ e.g. 教職員限定 etc.）

UTokyo Slackに移植したので、OLDに。。

704名！

randomチャンネルでは情報共有など

ちょっとしたタスクについても、すぐにチャンネルを作れる。全教員が入っている slackは便利。

講義のチャンネル

EEIC (OLD)

random 本チャンネルは「学生の皆さんにとって有益な情報」や「皆さ...

704

1ピン留めアイテム ＋ 関連ページを追加する

9月21日 (水)

その他

チャンネル

[redacted]

2021-学位記授与式等配信

[redacted]

2021-前期後期実験

[redacted]

2021a-ソフトウェア1

2021a-自己紹介

[redacted]

22-前期後期実験

[redacted]

期実験-i1i2i3

[redacted]

eeic2022

general

help-queries

random

[redacted]

random

種村 拓夫 (教職員) 09:41

東大工学系主催で、中高生、高専生、予備校生などを対象としたイベントが開催されます。
ご家族、中高・高専の後輩、お知り合いなどでご興味がありそうな方がいらっしゃいましたら、
ぜひ広めて頂きますようお願いします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

『東大工学部のリアル２』開催のご案内

2022年10月9日(日) 13:00-16:10 安田講堂 および オンライン配信

この度、 中学生、高校・高専生、予備校生などを主な対象とし、
10月9日(日)13時から 安田講堂及びオンライン配信にて
「工学部のリアル２」を開催することになりました。
https://www.t.u-tokyo.ac.jp/event/ev2022-09-02-001

- 場所：安田講堂（500名）およびオンライン
- プログラム詳細：https://www.t.u-tokyo.ac.jp/event/ev2022-09-02-001
- 参加申込：https://forms.gle/25d4YxcZ3vFWxHqC9
  - 安田講堂　2022年9月27日（火）応募多数の場合は抽選
  - オンライン視聴　2022年10月2日（日）
- お問い合わせ：東京大学大学院工学系研究科 学術戦略室
  - gakujutsusenryaku@t-adm.t.u-tokyo.ac.jp

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

東京大学工学部

「東大工学部のリアル２」開催

「東大工学部のリアル」第二弾です。 オンライン視聴はどなたでもご参加いただけます。

#random へのメッセージ

メンバー管理について

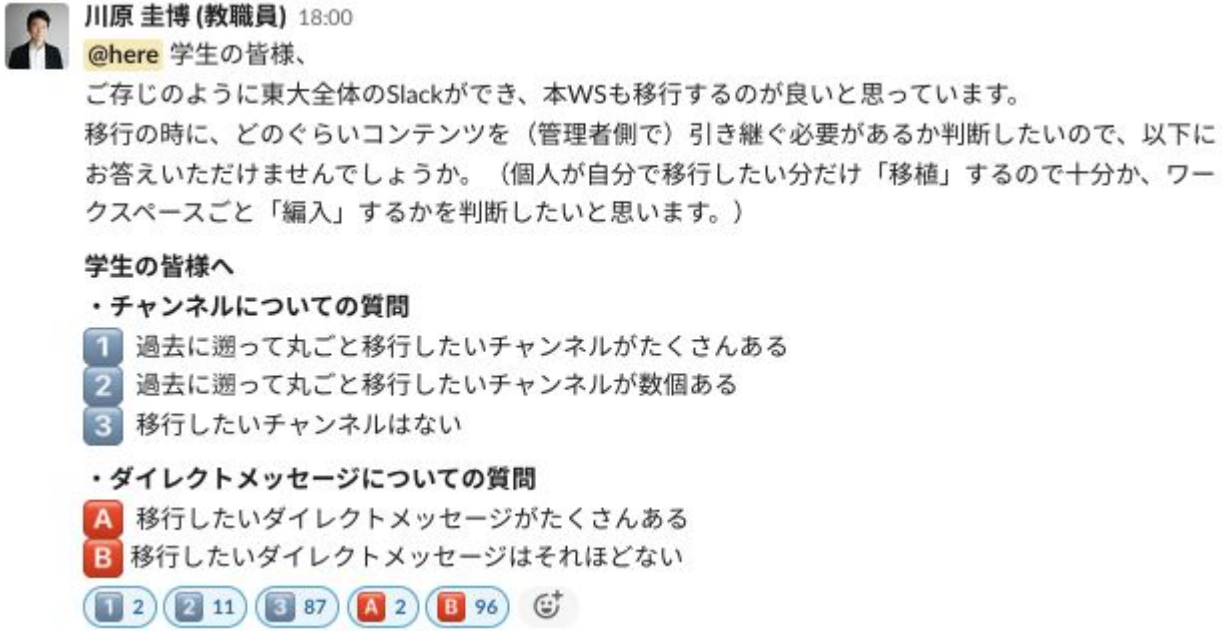
- 構成員全員の迅速な参加には共通IDが必須
  - UTokyo Slack以前でも、ECCSメールアドレスと紐づいておりこちらで招待できた
  - UTokyo Slackではそもそも UTokyoの共通認証基盤が必須
- 共通IDの把握法
  - UTokyoアカウントで作成したMS form の場合、回答者の共通 IDが取得できる
  - 学科学部の教務・事務担当による所属学生の学籍情報把握
  - ITC-LMSによる講義参加者の共通 ID把握
- 学期・学年の入れ替わりでの対応
  - 緩やかな運用: CSVでエクスポートしたメンバーリストから全員にメールを通知し
残すかどうかの希望をとってアカウントの無効化をかける（無料時代）
  - UTokyo Slack の場合、卒業・修了時は容易。進学などの場合は上記の運用が引き続き妥当

Tips（ちょっとした活用術）

- SlackにはPolly などの連携アプリがあり気軽にアンケートを作成可能
  - ただし無料プランの場合レスポンス数に制限があるため講義などで使うとオーバーしがち
- Slack における気軽なミニアンケートの作成法

  1. 選択肢を提示した際にあらかじめスタンプを必要数つけておく
  2. 参加者にはスタンプを押してもらうことで簡易に投票をまとめられる

例: ミニアンケートによる民主的な意思決定



この結果，スマートな移植を実現

- **UTokyo Slack でのEEIC WSは25チャンネルで再始動**

UTokyo Slack移植後のメリット等

- ユーザグループ機能が使える
  - 教職員グループ、事務室グループ、学生グループなどでユーザの属性ごとにデフォルトチャンネルの設定などを変更できる
  - 通知（アットマークをつけてメンション）もグループでひとまとめで可能
- メッセージの上限がなくなることで継続性が増す
- UTokyo アカウントによる共通認証基盤によりメンバー管理が容易に

所感・共有したい知見など

- 学部WSは活発 :) / 大学院WSは相対的にあまり盛況でない:(
  - 学部学生（特に2, 3年生）にとって重要なプラットフォーム
  - 4年生、大学院生は通常、研究室などでフォロー可能
- 講義チャンネル: 講義受講者・担当教員は参加。講義に関する情報共有など
  - 学生との距離が近くなる : Pros/Cons 両面あり
- EEIC学生でなくても講義受講者はEEIC Slackに参加可、という緩めの運用
- 教職員+学生という形式の重要性
  - 教職員チャンネルもある（重要）: 新任教員でも教職員同志の交流のきっかけに
  - 学生はデフォルトでアクティブなので、以下に教職員がアクティブかが重要　:-)